

世界連邦 京都総会ひらく

平和へ世界法を提案

国連を世界連邦に改組して戦争のないひとつの世界を理想目標にかかげ、さる二十四日から東京で開幕した世界連邦世界協会(WA・W・F・湯川秀樹会長)の大회는、会場を京都に移し、二十九日朝から左京区岡崎の京都総会会場で二百四十にわたる総会のアジェンダをあげた。(七面に関連記事)



平和への討議が始まった「京都総会」会場



あいさつをする湯川会長(右)はアトリー元英首相

次期会長 湯川氏を再選

会場にはアトリー元英首相、ラシーン・ネル夫人(インド)ら開会を宣言、北村徳太郎世界連邦十九カ国から投票権をもつ百五十人の代表と、オプザーバーをふくめて四内から約五百十人が参加した。湯川世界協会の湯川会長が「この総会では、東京宣言などをきき、年前十時から開会式にのぞく。この間、この総会が大きな要であり、われわれはこれの目的を達成し、世界平和への現実的なプランを推し進めたい」と世界法がいま必要であることとを強調した。

京都に迎えたのは市民の大きな喜びであり、この大会が人類の理想に向かって、まことに進められる切望したい」と歓迎のあいさつを述べた。

平沢京大総長も「世界連邦は夢ではない。その生きた証はほらここに。こうして世界のひとたちが人類、国境を越え、兄弟としての会議をもっている。忍耐と深い理解の上に立つて、戦争のない世界を築きたい」とのべた。

最後にアトリー元英首相が祝辞に「アトリー、ほとんどの夢だ。たしななとがいま実現されつつある。これは私たちの努力が通じたもので、平和な世界への歩みを感じたい」と述べ、それぞれ拍手を浴びた。

このあと協会の事務局から東京大会の報告や協会の会務、会計報告があり、引き続き役員選挙に移った。スタンレー議長が次期会長に湯川秀樹現会長を推薦、満場一致で同氏の再選を決めた。

c084-016-032

共産圏にアピール 湯川会長語る

再選された湯川会長は、同日正午から記者会見を行ない、この日の連邦運動の展望と抱負をつぎのようにつづらせた。

「この大会が果たせるものは、人たちの希望にこたえることは、非常に困難である。しかし、世界連邦の運動もこれですべての人たちが仲よく力を合わせて行なえば、十分な成果が期待できる。

「一、当面の課題は比較的運動への理解の深いA諸国、南米、共産圏に対していかに連邦思想をひろげていくかである。各ブロックともそれぞれの国情から非常にむずかしい問題をもつことが予測されるが、この点、正面から取り組まなければならないだろう。

「二、とくに共産圏との関係では、『思想浸透』という形ではなく、『世界の人がすべて手をのり合いついて』という連邦の原則に基づいてアピールを行なう。すでに連邦の一部関係者はフルシチョフ首相との間に、非公式な意見交換があり、その面での話し合いのペースは開かれている。私は困難ではあるが、各通リ全世界的な運動に高めていきたい。

c084-016-033

午後からは総会にまわり、各国代表から出されていく諸提案を討議した。

総会は三十日夕ひさし、湯川が東京提案はじめ、各国代表から出される諸提案を検討し、採決し、東京宣言を具体化するものとする。